

ユースワーカーのチーム内支援の在り方

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
久住 祐香

本研究は、実践から専門的能力を獲得する効果的な方法として、同じ現場で働くユースワーカーのチーム内での支援行動について行動分析学の立場から検討した。

研究 1 は、現職ユースワーカーに、専門的能力を獲得するためのチーム内支援行動についてインタビュー調査を行った。その結果、チーム内支援行動を〈情報共有〉〈強要しないアドバイス〉〈チームプレイの力を育てる〉〈メンバーを受容する〉〈自己理解を表現する〉と定義した。

研究 2 は、ユースワーカーの効果的な支援行動の増加を目的として、チーム内支援行動をミーティングへ導入し、その有効性を検証した。ベースライン期は、チームの中で自然に行われている項目の数を測定した。介入期は、チーム内支援行動が記載されたボードとチェックシートを用意し、磁石を動かす、使用された項目にチェックをするなどした。また、介入Ⅰ期は、今まで使用回数が少なかった項目を意識して使用するよう伝え、介入Ⅱ期は、意識して増やす項目をチームで話し合った。

結果、効果的なチーム内支援は、ミーティングの中で臨機応変に話題や参加者に合わせた項目を考えながらチーム内支援行動を選択肢として持つことであった。また、チームの外部からの関与、あらゆる立場のユースワーカーからの話題を提供、ユースワーカー個人の成長を目的としてミーティングの開催など、話す場を設定することも効果的なチーム内支援であった。